

令和6年度第1回吹田市連合自治会ネットワークテーブル概要

日時: 令和6年(2024年)9月25日(水)

午後2時~午後3時30分

場所: 吹田市役所高層棟3階

吹田市危機管理センター

市長と連合自治会が意見交換を行う場として、令和6年9月25日(水)、吹田市連合自治会ネットワークテーブルを開催しました。

1 「令和6年能登半島地震における吹田市の活動報告」

今回は「能登地震について」をテーマに、まず危機管理室職員から、能登の現状、被災地での活動、及びそこから得られた災害に対する考え方について報告をしました。

それを受けて市長がコメントをし、その後連合自治会の皆様と市長による災害対策について意見交換を行いました。



2 意見交換

参加者

市長がおっしゃった、「災害が起きた時、3~4日ほどは地域で助け合い、対応してください」という話を地域でも、「災害があったら市から誰か来るだろう」という考えが未だに払拭されていません。自治会への参加率は大きく低下しており、若い人は災害に対する危機感がないように感じています。このあたりについて、市からの広報等良い策はないでしょうか。

市長

まず、災害対応についての責任は、基本的に1人ひとりにあります。その次は、ご家庭の責任になります。自治会によって連携がしっかりしているところでは、自治会で対応されますし、そうでないところでは横連携ができていません。地域の繋がりが薄い方が住みやすいという人は、それだけのリスクを抱えて住んでいるということです。

市でも様々な方法でお知らせをしていますが、そういう人に限って市報やホームページを見ません。災害に対する意識も低いです。

吹田市は、核家族化が進んでおり、人口の流入も多く、自治会活動が非常に難しいです。このような時に、コミュニティを強めるために自治会で何をしたらいいかということですが、それが「まつり」です。夏祭りだけではなく、文化祭や体育祭、餅つき大会など様々な「まつり」を行うことで、顔見知りの人同士が繋がっていきます。

もう一つ忘れてはいけないのが、小中学校です。保護者同士の繋がりは必ず強いものがあります。

参加者

ママ友の情報網がかなり強いことに驚かされています。そういったものが身の回りにもっとあればいいなと思っています。

また、うちの地域は集合住宅のみで一戸建てがありませんが、気にしていることは、例えば地震が起こった時、エレベーターが止まったら10何階から子どもや高齢者を階段で下ろせるのかといったことなどたくさんあります。ですが会議をしようが、訓練しようが、結局皆さん他人事で終わってしまうので、若干開き直った気持ちでいます。

市長

災害と同じように、戦争も高度経済成長期もバブルも、経験していない世代は知りません。経験していても、人の記憶は薄れていくものなので、そうなるともう訓練するしかありません。今回の危機管理室長のように、語り部となって言い続けていくしかありませんが、それにも限界があります。

人間はそうして繰り返していくものだと思います。東日本大震災で津波の被害を受けた海岸沿いにも、家が建ち始めています。ですが、法律で止められるものではありません。分かっているということをやる人は止めようがありません。それが行政の限界です。

参加者

うちの地区では、令和4年に地区防災対策委員会を立ち上げたばかりです。

先ほど市長がおっしゃった「まつり」と、「ご近所さん＝ご近所力」を当地区のキーワードとして、機会があるたびに地域の皆さんにお話ししています。

「まつり」をやることによって、「ご近所力」をアップする。

そのために当地区の自治会、それから体育振興会、青少年対策委員会及び子ども会等大きな団体が11団体ありますが、これまでの「行事」という言い方から、「お祭り」という言い方に変えて活動しています。

防災訓練や炊き出し等をやることはなかなか難しいため、今できることとして、いかに防災が大事かということを、地域の人に広報していこうとしています。災害が起こった時には行政や連合自治会も参集できない場合がほとんどなので、備蓄は普段から1週間分準備しなければならないというお話をしています。

現在「ご近所力」を上げるためにお祭りをやろうとしているのですが、そのお祭りに関して、1つ聞きたいことがあります。

ご協力いただく学校から、「働き方改革で土日は出勤できません。機械警備なので朝7時以降でなければ校舎内に入れません。」と言われました。また、朝6時から入れるようにしてもらえませんかと要望したところ、「警備員を配置する予算がありません。」と言われました。

一生懸命地域が集まってやろうとしていることに対して、機械警備が7時だから対応できません、対応するとしても予算がありませんという話があると私はがっかりします。働き方改革と言われてしまうとちょっと違うのではないかと思います。

私は今、連合自治会長という立場で、地域の「ご近所力」を何とかアップしていこうとしています。これがすべてに繋がるのではないかと思いますので、これからもそれを続けていきたいです。

また広報をする中で準備しているのが、1600年から約420年間のマグニチュード6以

上の地震の発生状況を2025年のカレンダーに載せていくというものです。作っていくと、365日のうち、ほとんどの日に地震があったことが分かりました。そのように広報のやり方もいろいろ変えながらやっています。

市長

防災訓練というのは、災害対応の「まつり」の一種です。それを通じて、防災意識を高め、コミュニティを醸成することが目的です。

それに何か小さなブレーキがかかっているとすれば、できることとできないことはあると思いますが、できることは対応させてもらいます。

それから、先ほどお話しされたマグニチュード6以上の地震のカレンダーについて、発想が素晴らしいです。1回見せてもらいたいと思います。イギリスで同じことをすると、カレンダーは真っ白になります。我々は他国と違い非常に災害リスクの高いところに住んでいるということ意識しなければならないと思います。

参加者

当地区は JR 以南地域です。ハザードマップでは一番真っ赤な地域です。

考えられる災害は、やはり地震と水害、そして安威川が目の前にあるため液状化の心配もあります。

そうすると、避難所まで到達できるのか、避難所に届いた救援物資を、単一自治会の代表者が取りに行けるのかという心配があります。

また自治会の班の高齢者から、「災害が起きたらどこに避難したらいいでしょうか」と問い合わせがあった時は、「避難しないでください。この班の中で、助け合って、1週間持ちこたえましょう」と申し上げています。私が所属する単一自治会や連合自治会の会議においても同じ話をしています。

救援物資について、全体に配給できるほどの量があるのかという危惧もあり、そうすると自治会としては、まず会員の方々が優先になるだろうと考えています。

また、安威川ダムの運用開始や、南正雀から吹東町にかけての下水管工事の実施によって、安威川の氾濫低減や、ハザードマップが赤から黄色に変わっているのかなと思っています。市には感謝しかありません。

市長

まず、安威川ダムによって、安威川での水害の可能性は極めて少なくなりました。また地盤の緩さについては、盛土切土マップというものがあります。切土は山を削ったところで、地盤が安定しています。盛土は埋めたところで、地盤が緩いです。地域がどちらかというのは自治会レベルでも知っておいた方がよいと思います。

それから救援物資は自力でというイメージでおっしゃっていましたが、これは様々な手法でお送りしますので、筋力を使っていただくなくて結構です。お配りするときにお力をいただくことはあるかと思いますが、物資を運んで、あとは自治会にお任せするという対応ではうまくいきませんので、そこはご協力もいただきながら対応します。

避難所についても、災害によって場所が違います。地震が1回だけでなく、2回3回来ることもあるため、とりあえず班で対応しようとしても、その避難所から逃げなくてはならない可能性もあります。

令和6年度第1回吹田市連合自治会ネットワークテーブル概要

開催日：令和6年（2024年）9月25日（水）

また救援物資は会員優先という話については、全く違います。市民は対等であり、自治会加入の有無は関係ありません。

危機管理室長

自治会費のお金で、備蓄をしている場合があると思います。

東日本大震災で被災した自治体をいくつか見て回った中では、自治会が食糧を自治会員から優先して配ったところと、自治会と関係なく配ったところ両方ありました。ただ、復興に向かっていく中で、非自治会員で食糧をもらえなかった人は、その地域から出て行ってしまう確率が高かったです。

外国では、お金を払って買ったものは払った人たちのものという考え方が多いですが、日本では、いざ発災した時は皆で分け合い、もう一度まちをつくっていくという考え方が多いです。それは災害を繰り返してきた中で、地域で備蓄米を分け合っていたところから始まっています。